2023 年は非常に暑い一年でした。2023 年の夏(6 月～8 月)の平均気温は、1946 年の統計開始以降、北日本と東日本で 1 位、となるなど記録的な高温となり、東京都心では 2023 年の年間の真夏日日数の積算が 90 日と過去最多であった年でした。その影響か、今年の冬も気温が高く、紅葉も 1 ヶ月遅れと非常に暖かい冬を迎えています。12 月に入り、木枯らしも少し吹き始めたので年末のお掃除を始めたところ、古い冊子が 2 冊出てきました。それは「しーべると (SV)」という東京電子専門学校診療放射線学科の同窓会記念誌でした (図)。見つけた冊子は 1990 年 8 月に発刊した冊子と、20 周年として発刊した 1992 年の冊子でした。この冊子のおかげで、自分が 20 期生であったことが分かります。この当時は個人情報が今ほど厳しくなく 1 期生から卒業生のお名前と、職場ならびに連絡先まで記載されております。また現在、新たに同窓会の会長に柳田先生を迎えて同窓会が行われておりますが、その当時も同窓会総会が行われており、記録が残っておりました。20 周年記念誌では、石田先生の寄稿や 20 期の同窓生の記事も乗っておりました。

当時を振り返えると、教務は 4 人体制で波多野先生、加藤先生、三浦先生と小川先生であったと記憶しています。私の 20 期は加藤先生が担任でした。教務員室は現在と異なり非常に小さな部屋で、先生方も苦労したと思います。当時の教室は確か 10 階で（違っていたら申し訳ございません)、背もたれの無い長椅子で授業を受けていた記憶があります。また、実験では地下の X 線室や 1FCT 室でセンシトメトリーの実験や臨床画像閲覧などを行った記憶があります。当時、加藤先生のレポートを受理してもらうのに、お昼過ぎの食事終了後が一番良いと仲間内で話があり、その時間を狙い提出に行ったのも懐かしい思い出です。

この冊子には、先輩方も含めて、どこの病院に就職したかがわかります。当時は診療放射線技師の 4 年生大学は無く、診療放射線技師の養成校の多くが専門学校でした。それもあり、国公立の病院や大学病院に就職する卒業生が非常に多かったです。私は、当時の昭和大学に就職しましたが同期は 6 名一緒に入職しました。昭和大学の関連病院も含めると 8 名も就職しました。また中の良い同級生のグループも、ほとんど大学病院・総合病院に就職し現在も務めている同期も大勢おります。

卒業して 33 年になりますが、同期で私以外に技師長に就任した話も聞きますし、放射線技師会理事や放射線技術学会の役員を含め活躍している姿をみると、皆さん頑張ってきたのだと嬉しく思っています。また、非常に残念ではありますが、同期で病気が原因で他界された話もききました。東京電子専門学校を卒業して長い年月がたったと感じます。

数年、東村先生のお声がけで同窓会の役員を務めさせていただきましたが、校舎は非常に綺麗になり、環境が素晴らしいと感じておりました。今の学生さんには、頑張って勉強していただき、立派な診療放射線技術を目指して頂きたいと心から願っております。

昔の思い出話が中心となってしまいましたが、東京電子専門学校で勉強した知識や諸先輩との交流、同期との絆は今の仕事の礎となってきました。卒業生であったことを誇りとして今後の診療放射線技師業務を務めてまいります。この様な機会をいただき誠にありがとうございました。　　令和 5 年 12 月某日　昭和大学江東豊洲病院技師長　　高橋　俊行

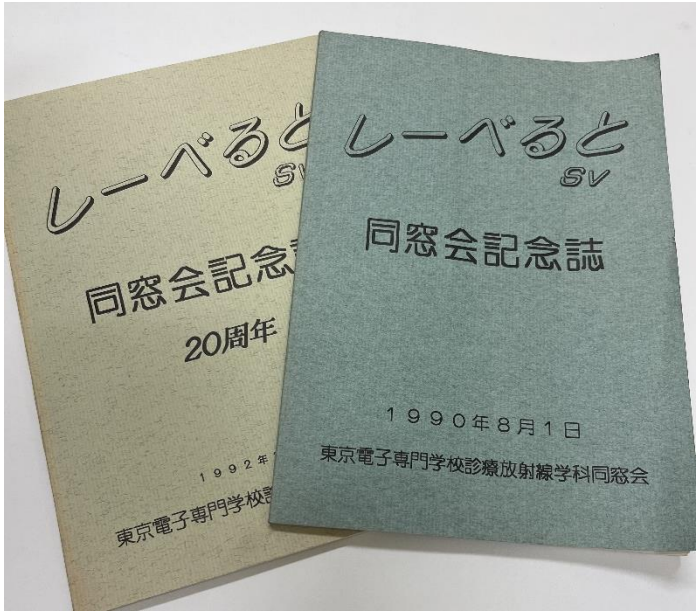

図　同窓会記念誌　しーべると SV